

車の消耗品と交換時期、その役割と交換の必要性について

消耗品	車利用年数 (走行距離)										備考	どんな役割？	なぜ交換が必要？	交換を怠ると？	最悪の場合。。？	
	1年目 (1万km)	2年目 (2万km)	3年目 (3万km)	4年目 (4万km)	5年目 (5万km)	6年目 (6万km)	7年目 (7万km)	8年目 (8万km)	9年目 (9万km)	10年目 (10万km)						
エンジンオイル	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	半年～1年又は5千km毎	エンジン内部を循環して、耐摩耗、潤滑、冷却、洗浄、防さびなどの働き	エンジン内部循環の過程でオイルは汚れを取込み、劣化していきます。あまり走行せずともサビがでます	潤滑性が低下し、燃費が悪くなり、不純物がたまり、エンジンの調子が悪くなります	オーバーヒートやエンジンのパーツが溶けて癒着し、焼き付き、破損してしまいます	
オイルエレメント		△	◎	△	◎	△	◎	△	◎	△	エンジンオイル2回に1回毎	エンジンオイルをろ過して不純物（金属粉等）を除去し、オイルを最適な状態に保つ働き	フィルターの汚れが蓄積し、目詰まりにより、ろ過作用が低下します	ろ過機能の低下によりエンジンオイルの劣化を早めます。潤滑不足により燃費低下	オイル内の不純物がろ過できず、エンジンに回り、焼き付き、錆の発生などがおこります	
ブレーキオイル			◎		◎		◎		◎		車検毎	ブレーキペダルで踏んだ力を4輪のブレーキ装置に伝える働き	吸湿性が高い成分でできているため、水分を取込み、沸点が低くなっていく劣化が生じます。	沸点が下がると気泡が発生しやすくなり、油圧がピストンやシリンダーにかかりづらくなります	ブレーキの効きが悪くなる。ペーパーロック※1を起こしやすくなる	
バッテリー			△		◎				◎		3年～4年毎の交換	エンジンの始動や、あらゆる電気装置はもとより最近の車は全て電子制御の為、車のほぼすべての装置に関わる	バッテリー不良により前兆なく突然エンジンがかからなくなることも。定期交換が必要	エンジンがかかりづらくなる。ライトが暗くなったりする	エンジンがかからなくなる。	
ワイパーブレード・ゴム	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	半年～1年程度	雨天時等の視界確保	ゴム製品のため使用や使用期間により劣化し、硬直や端切れ、へたりが起きます	雨天時、水分のふき取りが悪くなる	雨天時、視界が悪くなり、視界不良による事故の危険性が上がる	
ブレーキパッド					★						★	パッド残量半分（5mm）～3mm程で交換目安	タイヤとともに回転しているディスクローターを強く押しえつけ、摩擦により車を停車させる働き	ブレーキパットの材質がディスクローターよりも柔らかい材質のため、摩耗によりパッドがすり減っていきます	パッド残量がなくなり、ブレーキの効きが悪くなります	ディスクローターが削られ損傷してしまいます
エアエレメント					◎				◎		4万km又は汚れの程度を見て判断	エンジンが燃焼するには大量の空気が必要で、その空気を取り込む際にホコリやゴミを取り除くフィルターの働き	フィルターにホコリ、汚れが蓄積し、空気の取込み効率が低下します	空気の取込み効率が低下し、燃費が悪くなります。また、加速が鈍くもなります	空気の取込み効率が下がり、燃焼効率も落ちるため不完全燃焼によるエンジン不調・有害排気ガスの排出	
エアコンフィルター		△	◎	△	◎	△	◎	△	◎	△	1年又は12,000km目安	エアコンユニット内に取付けられており、外気導入時のホコリ、ゴミの侵入を防ぐ。内気循環時もホコリなどフィルターを通します。	フィルターにホコリ、ゴミ、虫の死骸などがたまっていきます	エアコンの効きが悪くなったり、エアコンから嫌なにおいがしたりする	エアコンの効きや嫌な臭いの程度がひどくなってしまいます	
ベルト					★						★	5万～6万km交換目安	エンジンからの動力をエアコンプレッサ・パワーステアリングポンプ・オルタネーター（発電機）等の補機類に伝達する働き	ゴム製の為、経年劣化します。ゴムが硬くなったり、伸びたりします	劣化がでてくるとキュルキュル音が鳴り始めたりします	ゴム切れ等で走行不能になったり、その他の重要部品の修理が必要になるなど修理費が高額になる可能性も
発炎筒			◎			◎			◎		使用期限切れで交換（約3年間）	事故や故障などにより緊急停車した場合に、周囲に危険を知らせるために使用するもの	使用期限が決まっているものが多く、期間は約3年間のため、期限切れは交換の必要がございます	期限切れは劣化により点火しない可能性があります	本当の緊急時に使えない事態になります	
スパークプラグ					★				★		3万km毎、又は車検2回に1回毎交換目安	コンピューターからの信号を受けて、最適なタイミングで強い火花を発生させるエンジンの燃焼に携わる重要な働き	燃焼を繰り返し、徐々に劣化していき、火花が出づらくなってきます	燃費の低下や、加速が悪くなる。アイドリング不調も。不完全燃焼によりエンジンがかかりづらくなる	エンジンがかからなくなる。有害排気ガスを発生してしまう	
クーラント			◎		◎		◎		◎		車検時（初回3年目、以降2年毎）	エンジン内部を循環して、冷却、防錆、凍結防止などの働き	熱の影響や酸化により劣化します。また、蒸発により量が減っていきます	エンジンの冷却がうまくいかずエンジン温度の上昇、錆がでてきて冷却水通路の目詰まりが起こる	オーバーヒートの危険性。極寒地では冷却水の凍結・エンジン破損など	
タイヤ					★						★	残溝2mm以下、又はひび割れ等劣化具合	エンジンからの駆動力、ブレーキからの制動力などを道路に伝える重要パーツ	ゴム製品のため走行距離や経過により、すり減り、亀裂、キズ等の劣化が生じます	ブレーキの効きが悪くなる。乗り心地が悪くなる。スリップしやすくなる。	ハイドロプレーニング現象※2が起きやすくなる。タイヤバーストの危険性も増加する
オートマオイル					★						★	5万km毎交換目安	AT車の変速に関わる働きをするオイル（フルード）	熱による酸化やAT内部の金属粉/バンド類のカーボンスラッジ※3の混入などで劣化していきます	変速ショックが大きくなる、セレクトショックが大きくなる、加速が鈍くなる、燃費が悪くなる	AT損傷により交換しなければならなくなる
スマートキー・キー電池		△	◎		◎		◎		◎		1～2年毎交換推奨	スマートキーやキーレスによるドアの開閉やエンジンの始動に必要な役割	電池式の為、定期的な交換が必要です	電池が切れてしまいます	電池切れによりドアの開閉に支障がでます。スマートキーの場合、エンジン始動ができないことも	
車検の時期			車検		車検		車検		車検		※新車登録の場合	<用語注釈>※1ペーパーロック・・・ブレーキオイルの沸騰により気泡が生じ、ブレーキが著しく効きにくくなる現象。最悪の場合全く効かなくなることも。 ※2ハイドロプレーニング現象・・・路面とタイヤの間に水の膜ができ、タイヤと路面の摩擦が無くなることにより、コントロール不能に陥る危険な状態 ※3カーボンスラッジ・・・エンジン内部のオイルと混ざった燃料やオイルの燃えカス				

※ ◎交換必要 △交換推奨 ★使用状況によるところが大きいため、交換目安